

令和3年度認定

【計画名：湖国フィールドミュージアム・長浜地域計画】

①計画目標の達成状況

目標項目名(単位)	R3			R4			R5		R6		R7	
	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	目標	実績	目標	実績
来訪者数(千人)	6,000	4,256	71%	7,100	5,239	74%	7,200		7,300		7,460	
外国人来訪者数(人)	5,000	1,563	31%	30,000	1,890	6%	32,000		35,000		38,000	
満足度(%)	60	87	145%	65	92	142%	70		75		80	
観光消費額単価(円)	24,600	25,467	104%	24,700	27,742	112%	25,000		25,300		25,800	

②計画目標の達成状況に関する分析・評価

<p>(分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響により、来訪者数は目標値の7割程度に留まった。 新型コロナウイルス感染症による外国人観光客の新規入国制限の影響により、外国人来訪者数が目標値を大きく下回った。 観光消費額単価については、新型コロナウイルス感染症からの回復期における消費単価の上昇と捉えられ、目標を大きく上回った。 <p>(評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 来訪者数、外国人来訪者数については、新型コロナウイルス感染症の影響がまだ残り、目標を達成できていない。 満足度については、目標を達成することができた。 観光消費額単価は大きく目標値を上回ったが、新型コロナウイルス感染症からの回復期における揺り戻しと考えられ、継続して消費額を増やすための取組を検討する必要がある。

③計画で取り組んだ事業の進捗状況

事業番号	事業名	R3	R4	R5	R6	事業類型ごとの実績額
事業1-① 事業1-② 事業1-③	歴史・文化展示魅力増進事業	—	中核文化観光施設において展示物の解説等の翻訳ガイドシステムを開発導入した。			15.5百万円
事業1-①	長浜城歴史博物館 歴史・文化展示魅力推進事業	—	収蔵品資料と市内の観光スポットを閲覧できるタブレットビューアの設置を実施。			
事業1-②	曳山博物館歴史・文化展示魅力増進事業	—	展示魅力増進のためプロジェクターを設置。誘客促進のため、デジタルサイネージ及び大型パネル(タペストリー)を設置。			
事業1-④	文化観光施設専門家養成事業	専門家養成学芸員1名の雇用を実施。	専門家養成学芸員1名の雇用を実施。			
事業1-④	来訪者の利便性向上に向けた人材の増員	—	新規に学芸員を雇用し、所蔵資料の適切な管理と展示の企画運営を行った。			0.7百万円
事業3-③	中心市街地連携事業	—	市内町づくり関係者らで結成された委員会と共催で、長浜城歴史博物館と曳山博物館の2会場で展覧会を実施。			
事業3-④	物販商品開発事業	—	旧長浜駅舎や鉄道車両をデザインしたオリジナルグッズを作って販売した。			
事業4-③	長浜文化資源映像化事業	映像化の支援気運醸成のために映画会を実施。	映像化の支援気運醸成の2回のために映画会と映画監督とのトーク会を実施。			0.8百万円
各年度ごとの実績額→		2.3百万円	14.7百万円			17.0百万円

④事業の進捗状況に関する分析・評価

<p>(分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門学芸員の雇用により、より高水準の展示企画が行えるようになった。 映像化支援の体制づくりを目的とした映画会を2回開催し、映画文化の浸透を進めた。 文化観光拠点施設において、デジタル技術を活用して展示魅力の向上や誘客の促進事業を行った。 民間と文化観光拠点施設連携により企画展を開催し、中心市街地と施設を繋げる事業を実施した。 外国人観光客の需要に合わせ、文化観光拠点施設での展示物の解説等について翻訳ガイドシステムを導入・運用を行った。 <p>(評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門学芸員の雇用により、展示企画の強化をはじめとした魅力の向上に寄与している。また、長浜市曳山博物館においては、文化財の修理が計画的に実施できており評価できる。 映画文化の浸透を図ることにより、地域や市民のシビックプライドの向上を図ることで、曳山祭を題材にした映画製作の機運醸成の一助となった。 文化観光拠点施設でのデジタル技術を用いた展示魅力の向上は来館者の満足度の向上に寄与しており、またデジタルサイネージ等の誘客促進事業については観光客の回遊性を向上させていると評価できる。 長浜城と曳山博物館の2館連携した企画展により、互いの施設の魅力向上や滞在時間の延長に寄与したと評価できる。 外国人来訪者数が少ないため、現段階での翻訳ガイドシステムの導入評価は困難であるが、今後の需要は高いと考えられる。

⑤拠点施設の要件に関する取組状況

要件	文化観光拠点施設名	長浜城歴史博物館	長浜市曳山博物館
・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介		収蔵資料、市内の観光施設閲覧用タブレットビューアー設置と翻訳ガイドシステムを利用できるQRコードの設置を実施した。	曳山や長浜の歴史を紹介する4回の企画展を開催した。また、重要文化財の2つの見送幕の特別公開や長刀組太刀渡次第版木図の特別陳列も行った。
・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介		収蔵資料、市内の観光施設閲覧用タブレットビューアー設置と翻訳ガイドシステムを利用できるQRコードの設置を実施した。	情報発信のためホームページだけでなく、フェイスブック、インスタグラムやツイッターの更新に努めた。
・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介		収蔵資料、市内の観光施設閲覧用タブレットビューアー設置と翻訳ガイドシステムを利用できるQRコードの設置を実施した。	市が作成したQRコードの読み取りによる外国語での音声ガイドシステムを活用した。
・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築		中心市街地連携事業として、市内の町づくりに関わる関係者らで結成された委員会と共催で、長浜城歴史博物館と曳山博物館の2会場で展覧会を実施した。	長浜観光協会（DMO）が企画・主管する「おでかけパスポート」事業、「長浜スクールパスポート」事業に協力し、入館者増を目指した。
・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析		館内アンケートを実施し、データは3ヵ月毎にまとめて、館内で共有している。	「湖国フィールミュージアム」の連絡調整会議に出席、長浜市における観光事業の実績を分析しながら、将来における事業展開を検討した。
・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立		「湖国フィールミュージアム」の連絡調整会議に出席、長浜市における観光事業の実績を分析しながら、KPIの設定や、PDCAサイクルの確立について検討した。	「湖国フィールミュージアム」の連絡調整会議に出席、長浜市における観光事業の実績を分析しながら、KPIの設定や、PDCAサイクルの確立について検討した。
要件	文化観光拠点施設名	長浜鉄道スクエア	
・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介		旧長浜駅舎、鉄道資料館、北陸線電化記念館それぞれの目的に合わせて、展示解説を行っている。 入館パンフレットでは、展示解説にはない解説も掲載し、顧客満足を上げている。	
・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介		HPでは、ビジュアルを重視した3館の紹介を行っている。 InstagramやFacebookといったSNSも活用し、旬なイベント情報を紹介している。	
・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介		英語と繁体字の入館パンフレットを用意。 令和3年度から、館内12箇所の展示物にQRコードを設置し、スマホで読み取ると、日本語、英語、中国語といった多言語で解説表示と音声聞くことができる。	
・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築		日本博物館協会など博物館や鉄道関連団体に加盟。連携し全国的な情報開示を行っている。長浜市・敦賀市・南越前町観光連携協議会や長浜おでかけパスポート会議など、近隣市町や市内の観光施設と連携し、観光客の回遊性を上げる取組に努めている。	
・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析		来館者アンケートを実施。満足度調査を行い、改善点があれば対応を行っている。長浜市来訪アンケートにおいても、鉄道スクエアに関するご意見を抽出し、必要に応じて対応を検討。	
・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立		単年度の入館人数と入館料の目標値を立て、それに向けて事業計画と予算を設定。およそ年4回の企画展を開催し、各回に対して収支予算を立て、四半期ごとに年間収支見込を立てている。自主事業であるグッズ販売やイベント実施にも力を入れている。AR探索ゲームなどの探索ゲームや鉄道スクエア検定など、滞在時間の延長や収益増を目的とした体験コンテンツも追加している。	

⑥観光関係者（DMOなど）からの評価

評価者	評価内容
公益社団法人長浜観光協会	・地域の課題のひとつであるインバウンド受入体制の強化については、本計画の実施により、統一した多言語対応がなされており、外国人のおもてなしについての効果があった。 ・各施設での主要スポットに解説を聞くことができるQRコードを設置、また展示の充実などを図ることで、滞在時間延長に取り組まれている。

⑦今後の改善の方向性

<ul style="list-style-type: none"> ・今後外国人観光客の増加が見込めることから、外国人観光客からの需要に対応できるよう中核施設ホームページの多言語化を進めるとともに、それぞれの施設の魅力を活かした体験教室など文化に触れる機会の創出により魅力を向上させていく。 ・採択された文化観光推進事業（補助事業）の計画的な推進及びより効果が高まるよう内容等のブラッシュアップを行う。 ・文化観光拠点施設間の連携を深めるべく、引き続き「湖国フィールミュージアム」の連絡調整会議を開催し、事業進捗の共有やニーズに応じた事業の計画などにより高度化を進める。
